

日本教育行政学会

The Japan Educational Administration Society

第57回大会プログラム

The JEAS 57th Annual Conference

2022年

10月14日(金)~16日(日)

日本大学文理学部



日本教育行政学会第 57 回大会の開催にあたって

日本教育行政学会第 57 回大会を、日本大学文理学部を大会準備校として、2022 年 10 月 14 日（金）から 16 日（日）に開催いたします。昨年の福岡大学を会場校として開催される予定だった大会は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、オンライン開催となりました。

第 57 回大会につきましては、現地での対面形式と同時双方向通信を併用したハイブリット形式で開催いたします。学会としても初の試みではございますが、本学会や他学会等のオンライン開催の経験も活かしつつ、新型コロナウイルス感染状況に応じて柔軟に対応してまいりたいと思っております。

3 日間の大会では、各種委員会の開催を皮切りに、若手ネットワーク企画、会員の皆様の研究発表の場である自由研究発表、公開シンポジウム「教育政策と変貌する省庁間関係」、そして研究推進委員会が企画する課題研究Ⅱ「教育行政学における基礎概念および重要命題の継承と発展(3)―教育現象の統合的解明に向けた知的体系へ―」を予定しています。

自由研究発表には個人研究、共同研究発表あわせて 33 件のお申込みをいただき、2 日目（15 日〔土〕）及び 3 日目（16 日〔日〕）の午前中に、計 8 分科会を設定させていただきました。本大会では、大会運営の都合上、大きく自由研究発表を対面形式での発表を希望される方々の分科会と同時双方向通信を利用した発表を希望される方々の分科会に分けております。詳細につきましては、本プログラムをご参照ください。

第 57 回大会では、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みまして、アルコールを伴う対面での懇親会は開催いたしません。2 日目（15 日〔土〕）のお昼に「ランチョンセッション」を開催します。

日本教育行政学会大会を日本大学文理学部が担当しての開催は初めてであり、不慣れにより行き届かない点多々あろうかと存じます。また感染対策による検温やアルコール消毒、参加費のオンライン決済などご負担をおかけいたします。

最後に、現地での対面形式と同時双方向通信を併用したハイブリット形式による開催となりますが、その利便性を生かしながら、充実した議論が行えるように、実行委員会一同、精一杯努力いたしますので、多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

大会実行委員会委員長 末富芳

大会案内

1. 大会日程

2022年10月14日(金)、15日(土)、16日(日)

第1日(会場:本館)

12:30~	大会受付	
13:00~15:00	年報編集委員会	本館2階会議室AB
	国際交流委員会	本館2階会議室C
	研究推進委員会	本館2階会議室D
15:15~17:00	全国理事会	本館2階会議室AB
17:00~19:00	若手ネットワーク企画	本館ラーニング・commons

第2日(会場:本館・4号館)

8:30~	大会受付	4号館411教室
9:00~11:50	自由研究発表1	4号館431教室
9:00~11:20	自由研究発表2	4号館432教室
9:00~11:55	自由研究発表3	4号館421教室
9:00~11:55	自由研究発表4	4号館422教室
12:00~12:45	ランチョンセッション	3号館学生食堂コスモス
13:00~17:00	公開シンポジウム	本館センターホール
17:15~18:00	総会	本館センターホール

第3日(会場:本館)

8:30~	大会受付	
9:00~11:20	自由研究発表5	2号館2201教室
9:00~11:50	自由研究発表6	2号館2204教室
9:00~11:50	自由研究発表7	2号館2301教室
9:00~11:55	自由研究発表8	2号館2304教室
13:00~16:00	課題研究Ⅱ	2号館2304教室

会員控室

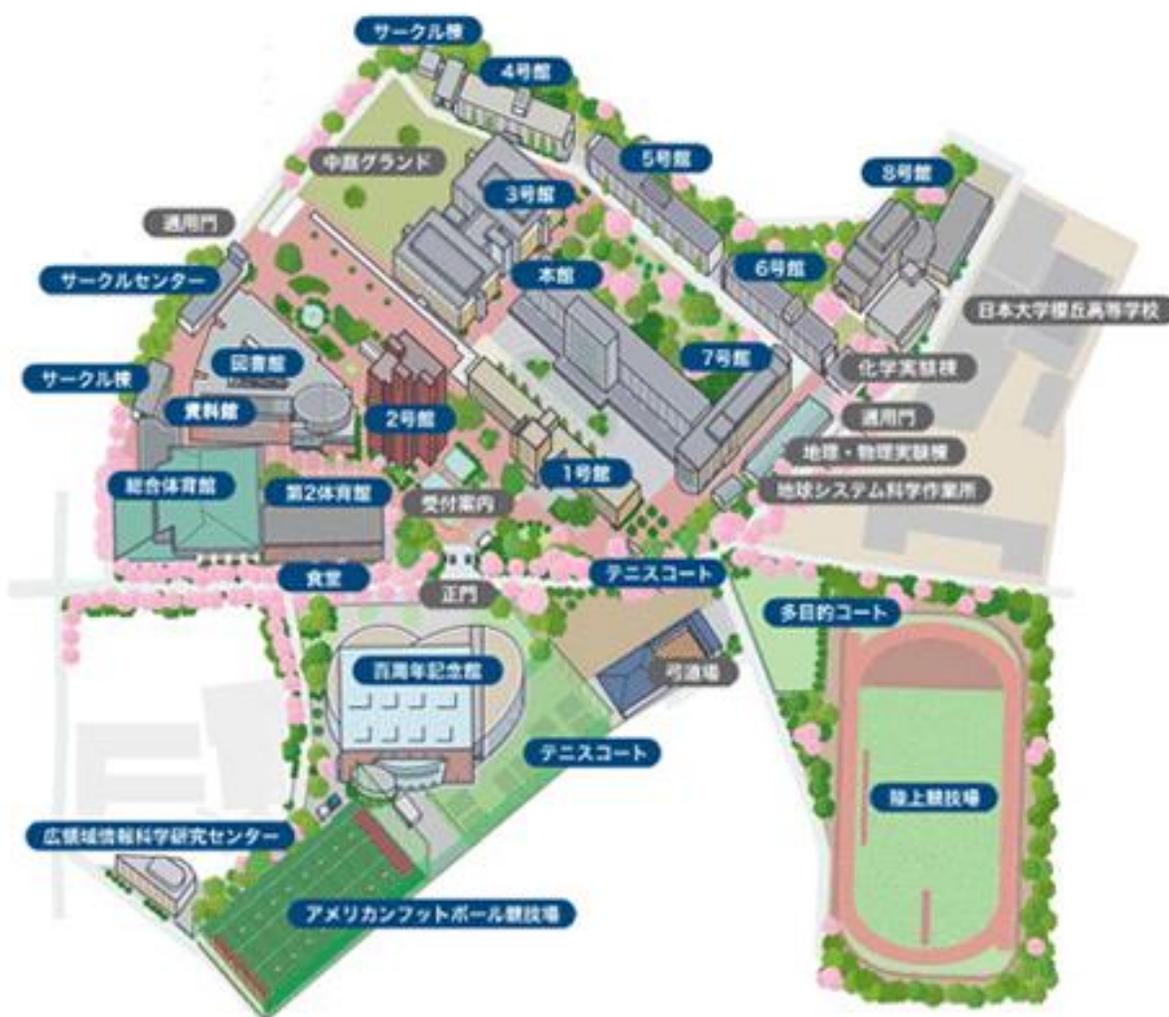
第2日 4号館1階 412教室 第3日 2号館2階 2202教室

※会場の教室が変更になる場合があります。当日の掲示を確認してください。

2. 会場

日本大学文理学部（東京都世田谷区桜上水 3-25-40）

文理学部キャンパスマップ



3. 参加費

一般会員：2,000 円（対面参加）／2,500 円（オンライン参加）

学生会員：無料（オンライン参加の場合は、事前に参加申込してください。）

臨時会員：3,000 円（対面参加）／3,500 円（オンライン参加）

*一部のプログラムでオンライン参加を希望される場合は、
参加費はオンラインの料金になります。

*対面参加からオンライン参加に切り替える場合には、
事務局にご連絡ください。

公開シンポジウムのみ参加費：1,000 円（対面・オンライン参加）

今回の大会では、受付での長時間の滞在と金銭を通した感染を防ぐため、イベント管理システム「Peatix」を利用した参加申し込み及び会費支払いを推奨しております。可能な限りご協力をお願いします。

「Peatix」のチケットは、パソコンやスマートフォンなどから利用可能です。

①アカウント作成

チケットを購入する場合には、メールアドレスあるいは外部サービスアカウント（Facebook、Twitter、Google、Apple）を利用して Peatix アカウントを作成してください。

②支払い

支払いは、各種クレジットカード、コンビニ/ATM（ペイジー）、PayPal がお使いいただけます。

お支払い方法ごとのチケット購入の流れは、以下のページをご覧ください。

<https://help-attendee.peatix.com/ja-JP/support/solutions/articles/44001821791>

手書きの領収証の発行を希望される方は、大会実行委員会事務局までご連絡ください。

参加費は、下記の URL サイトより申込・支払いをお願いいたします。

シンポジウムのみ参加費も同じページからご購入下さい。

<https://chs-jeas57th.peatix.com>

<リファンドポリシー>

第 57 回大会への参加にあたり、納入された諸費用は返却できませんのでご了承ください。

ただし、以下のいずれかに該当する場合に限り、お支払いいただいた費用（振込手数料を引いた額）を返金いたします。

- a. 第 57 回大会の開催が中止された場合
- b. 誤って二重に参加費を支払った場合

4. 開催方式について

今回の大会では、対面方式と Zoom を利用したオンライン方式を併用して開催します。特に、自由研究発表は、対面発表を主とする部会とオンライン発表を主とする部会に大まかに分かれています。

発表要旨集録及びオンラインでの参加方法等に関しては、大会当日の1週間前を目安に、参加者に対して「発表要旨集録」と「大会参加マニュアル」を別途メールでお知らせします。

当日の報告資料は、Google ドライブと Zoom の「チャット」機能を用いて配布します。ハイブリッド開催・ペーパーレス開催の都合上、パソコン・タブレット端末などをご準備いただきますようお願い申し上げます。

日本大学文理学部は、学術無線 LAN ローミング「eduroam」が利用できません。そのため、文理学部 LAN システム「CMS-GUEST」と本大会専用の Wi-Fi を準備します。

パスワードなどの詳細は、当日会場の掲示をご確認ください。

5. 参加について

1. 受付での長時間の滞在と金銭等を介した感染を防ぐため、可能な限り事前に参加登録・参加費支払いを完了して、当日、会場までお越しください。会期中であっても、参加登録は可能です。
2. 参加費の事前の支払いの有無を問わず、毎日必ず受付を通過してください。10月14日（金）は、12時30分から本館1階、10月15日（土）及び16日（日）は8時30分から4号館1階（15日）、2号館1階（16日）にて受付を行います。
3. 下記に該当する場合は来場をお控えください。
 - ・発熱、咳、咽頭痛、味覚障害等の症状がある場合。
 - ・過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域への訪問歴がある場合。また、そのような人との濃厚接触がある場合。
 - ・「過去2週間以内に新型コロナウイルス感染症陽性と診断された人」との濃厚接触がある場合。
 - ・過去2週間以内に同居している人に感染者がいた場合。
 - ・過去2週間以内に新型コロナウイルス患者、或いはその疑い患者が発生した場所に入場した場合。

*新型コロナウイルス感染に伴う自宅療養期間や、濃厚接触の基準・待機期間等について、政府の示す方針に見直しがあった場合は、本項目の記載に関わらず、最新の案内に従って行動してください。

4. 各会場では、感染対策のため、会場スタッフの指示に従ってください。

○対面参加の場合

【発表者・司会者】

当日、発表会場にてご自身の端末で Zoom にログイン・入室していただきます。

発表者は、投影資料を Zoom の「共有」機能を使用して投影してください。司会者は、会場からの質問のほか、オンラインでの参加者の質問などは「チャット」機能で確認してください。

【一般参加者】

当日は、ご自身の端末より発表資料等をダウンロードしてください。

質問などは、挙手などで司会者に意思表示をしてください（オンライン発表会場でも同様）。発言の際には、オンライン参加者への配信の都合上、はっきりとした声でお願いいたします。

○オンライン参加の場合

【発表者・司会者】

当日、ご自身の端末で Zoom にログイン・入室していただきます。

発表者は、投影資料を Zoom の「共有」機能を使用して投影してください。司会者は、オンラインでの参加者の質問などを「チャット」機能で確認してください。

【一般参加者】

当日は、ご自身の端末より発表資料等をダウンロードしてください。

質問などは、全員に向けて「チャット」に書き込んでください。「チャット」機能が難しい場合には、「挙手」機能などで司会者に意思表示をしてください。発言の際には、対面参加者への配信の都合上、はっきりとした声でお願いいたします。

6. 感染対策について

1. 毎日、受付において検温をお願い致します。検温済みの方には、参加章ホルダーにシールを貼らせていただきます。参加日ごとに色が異なります。会場スタッフは、参加者が検温を済ませているかどうかをホルダーの色で確認します。検温を済ませていただいた後、再び検温所を通過する場合は、会場スタッフにホルダーを提示してください。
2. 会場では適切なマスク（不織布マスクを推奨）の正しい着用をお願いいたします。
3. 自由研究発表など講演会場での飲食は禁止といたします（水分補給のみ可）。飲食は会員控室でお取りください。
4. 手洗い、手指のアルコール消毒、咳エチケットを励行してください。
5. 周りの参加者の方と適度な距離をお取りください。
6. その他、基本的な感染対策の徹底をお願いします。

7. 昼食及び懇親会について

第 57 回大会では、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みまして、アルコールを伴う懇親会は開催せず、2 日目（10 月 15 日）の 12 時から 3 号館学生食堂コスモスにて「ランチョンセッション」を開催します。参加費は 1,100 円（ランチボックス・飲み物・フィンガーフード）となります。参加を希望される方は、下記の URL よりお申込みください。

また、10 月 15 日（土）は、コンビニエンスストア（ファミリーマート）が 8 時から 14 時まで営業しております。

10 月 16 日（日）は、食堂、コンビニエンスストアともに休業しておりますので、お弁当を 1 個 1,100 円で予約販売します（申し込みは 10 月 12 日までとします）。お弁当を希望される方は、下記の URL よりお申込みください。なお飲食の際は、感染拡大防止のため、黙食を心がけてください。

ランチョンセッション及びお弁当の注文は、
下記の URL サイトより申込をお願いいたします。

<https://chs-jeas57th.peatix.com>

※大会参加申込サイトから申込できます。

8. 各種委員会、理事会、総会

- ・年報編集委員会、研究推進委員会、国際交流委員会の開催につきましては、各委員会にお任せすることとしております。
- ・理事会は、**対面**で開催いたします。
- ・総会は、**対面とオンライン**で開催いたします。参加方法に関しては、「発表要旨集録」をご確認ください。なお、ご欠席される場合は、委任状フォーム（<https://forms.office.com/r/yjiuf98A6V>）を通して、委任状をご提出してください。

9. 自由研究発表

【発表時間】

個人研究発表 発表 20 分、質疑 5 分（計 25 分）

共同研究発表 発表 40 分、質疑 10 分（計 50 分）

【全体討議】

会場ごとに設定

【諸注意】

- ・各部会では、発表準備及び資料配付等の時間調整のために、5 分間の休憩を入れています。
- ・発表者がやむを得ない理由により欠席する場合には、速やかに大会実行委員会までメールでご連絡ください。なお、その場合、発表時間と発表の順番の繰り上げは行わず、司会者の判断により休憩または討議の時間に充てます。

10. 発表要旨集録

大会プログラムと同様に、紙媒体による『発表要旨集録』は配付しません。大会当日の1週間前を目安に、PDF ファイルを学会ホームページにアップロードし、参加申込をされた方々に別途メールでパスワードをお知らせします。

11. 大会参加のための宿泊等について

大会参加のための交通機関及び宿泊のご手配は、会員各自でお願いいたします。大会実行委員会では、宿泊先の確保、斡旋等を行いません。日本大学文理学部へのアクセスにつきましては、下記を参照下さい。

日本大学文理学部アクセスマップ

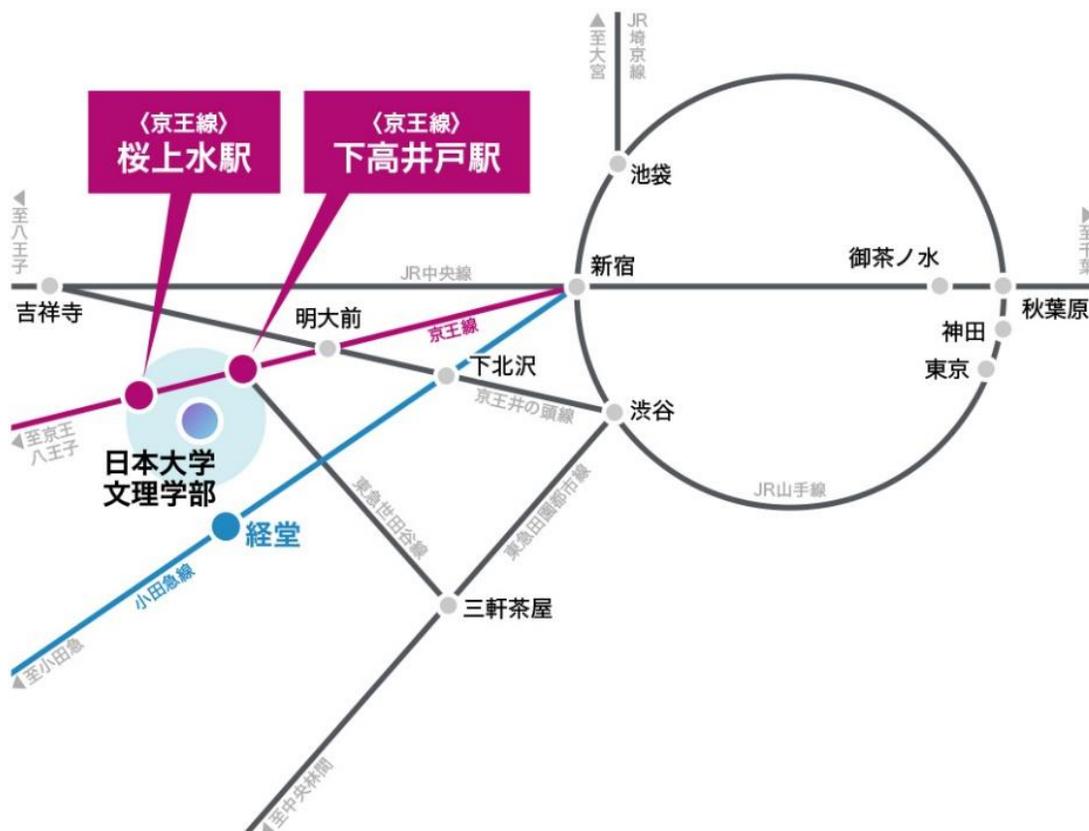
京王線・東急世田谷線：下高井戸駅（新宿・渋谷から10～12分）下車 徒歩8分

京王線：桜上水駅（急行停車駅・新宿・渋谷から10～12分）下車 徒歩8～10分

※「特急」「準特急」は停車しませんので乗車しないでください。

小田急線：経堂駅（新宿・渋谷から13～17分）下車 徒歩20～25分

※「快速急行」は停車しませんので乗車しないでください。



12. 問い合わせ先（大会実行委員会）

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科

Tel : 03-5317-9714

E-mail : chs.jeas57th@nihon-u.ac.jp

大会 1 日目
10 月 14 日 (金)

若手ネットワーク企画

【企画】植田 みどり（国立教育政策研究所）

佐久間 邦友（日本大学）

【趣旨】

今期の若手ネットワーク企画では、若手研究者のキャリア形成に焦点を当てた企画を計画しています。

最終年度の今年度も、昨年度に引き続き、研究者として中央及び地方教育行政との関わりをどのように持つのかという視点からキャリア形成について考える機会としたいと考えています。

昨年度の企画において、文部科学省及び地方自治体において実際に政策立案や政策運営に携わっておられる方から、行政現場が直面している現状や課題、学术界に期待することや要望等をお話いただき、参加者との意見交換を行いました。意見交換の中から、継続的な行政関係者と若手研究者との交流の重要性や、そのような機会を学会に期待する声があったことを受け、本年度も継続して行政関係者と若手研究者の交流の場を設定することといたしました。

本年度も、中央及び地方教育行政に携わっておられる3名の方から、行政現場が直面している現状や課題、学术界に期待することや要望等をお話いただき、参加者との意見交換をしたいと考えています。そして若手研究者自身が、教育行政の現場との関係を意識しながら、理論的及び実践的な研究を進め、社会との関わりの中で研究活動をしていくことの意味を考える機会としたいと思えます。

このような場における議論を通して、若手研究者自身が研究者としてのキャリア形成を自発的に考え、積極的に研究活動を行っていく契機になればと願っています。

【日程】

2022年10月14日（金） 17:00～19:00

- 17:00～17:05 企画の趣旨説明 : 植田みどり (5分)
- 17:05～17:25 中央教育行政の立場から : 佐野壽則 様 (20分)
- 17:25～17:45 地方教育行政の立場から : 吉田洋子 様 (20分)
- 17:45～18:05 地方教育行政の立場から : 伊藤卓巳 様 (20分)
- 18:05～18:15 質疑応答 (15分)
- 18:15～18:30 休憩
- 18:30～18:40 若手研究者よりコメント : 村上純一 (10分)
- 18:40～19:00 全体での質疑応答 (20分)

【報告者】

佐野 壽則（教職員支援機構）

吉田 洋子（福島県教育庁 教育総務課 企画主幹兼副課長）

伊藤 卓巳（川崎市教育委員会事務局 庶務課法制担当）

【コメンテーター】

村上 純一（文教大学）

【参加方法】

- ・ 会員の方へ：対面参加の方は、会場にて受付をしてください。オンライン参加の方は、「発表要旨集録」にて、ミーティング情報等をお知らせいたしますので、時間になりましたら入室してください。
- ・ 非会員の方へ：事前に学会員になった上で、参加ください。企画への参加方法に関しては、上記の「会員の方へ」と同様の形でお知らせいたします。
- ・ なお、若手ネットワーク企画にご関心のある、45歳以下の方は、併せて、若手ネットワークの会員にも登録してください。その際には、担当の佐久間邦友会員（日本大学）（sakuma.kunitomo@nihon-u.ac.jp）まで連絡してください。

大会 2 日目
10 月 15 日 (土)

自由研究発表1 (対面)

【司会】 阿内 春生 (横浜市立大学)
柏木 智子 (立命館大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:30

義務教育における地方分権改革と地方教育行政の変容
—教育条件指標の量的分析—

山崎洋介 (大阪大学大学院・院生)

・ 9:35～10:00

戦後日本の教育調査統計行政の成立過程に関する試論的検討
—文部省調査局を中心とした「連絡調整」に着目して—

橘孝昌 (東京大学大学院・院生)

・ 10:05～10:30

学校統廃合の規定要因に関する量的分析
—市区町村のパネルデータを用いて—

中丸和 (大阪大学大学院・院生)
／日本学術振興会特別研究員)

・ 10:35～11:25

公正で質の高い教育を目指したICT活用の促進条件に関する研究
～政令指定都市事例調査の分析結果報告～

- 藤原文雄 (国立教育政策研究所)
- 露口健司 (愛媛大学)
- 柏木智子 (立命館大学)
- 諏訪英広 (川崎医療福祉大学)

・ 11:25～11:50

全体討議

自由研究発表2(対面)

【司会】 高橋 哲(埼玉大学)
武井 哲郎(立命館大学)

・9:00 開会

・9:05～9:30

いじめ重大事態をめぐる教育行政の課題

－裁判例から見るいじめ防止対策推進法への対応－

○黒川雅子(淑徳大学)

坂田仰(日本女子大学)

・9:35～10:00

U理論を駆動させるための校内研修システムの開発的研究

元澤倫久(兵庫教育大学大学院・院生)

・10:05～10:30

ケンタッキー州にみる教育貯蓄口座(ESA)の新しい動向と課題

西村史子(共立女子大学)

・10:35～11:00

「民間企業等の勤務経験のある教員」の現状と制度的課題

前原健二(東京学芸大学)

・11:00～11:20

全体討議

自由研究発表3 (オンライン)

【司会】 木場 裕紀 (東京電機大学)
高橋 望 (群馬大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05~9:30

オーストリアとドイツにおける二元制高等教育制度の多様化

田中達也 (釧路公立大学)

・ 9:35~10:00

教育政策検証手法としての教育報告書

—ドイツ語圏諸国の分析を中心に—

坂野慎二 (玉川大学)

・ 10:05~10:30

韓国における「民間人校長」に求められる役割と専門性

—職業教育高校の公募校長に関する事例検討—

張信愛 (共愛学園前橋国際大学)

・ 10:35~11:00

カナダにおけるマイノリティの教育行政・学校運営参加の諸形態に関する理論的考察

—ウィル・キムリッカの「リベラル多文化主義」を手がかりに—

平田淳 (佐賀大学)

・ 11:05~11:30

ネットワーク型教育ガバナンスシステムにおける中間層の機能

—イギリスの MAT を中心に—

植田みどり (国立教育政策研究所)

・ 11:30~11:55

全体討議

自由研究発表4 (オンライン)

【司会】 関 芽 (日本体育大学)

古田 雄一 (筑波大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:30

子ども若者への包摂的支援体制の構築

ー学校・地域・行政を浸潤する連携モデルの在り方について

谷村綾子 (千里金蘭大学)

・ 9:35～10:00

社会的な学習の実相と生涯学習活動の意味

: 尼崎市「みんなのサマーセミナー」を事例として

佐藤智子 (東北大学)

・ 10:05～10:30

高知市型地域共生社会の実現に向けた社会教育士の役割と課題

～学校と地域と行政との協働による「プラットフォーム」化～

○野村ゆかり (一般社団法人「もうひとつの大きな家族」)

押田貴久 (兵庫教育大学)

・ 10:35～11:00

韓国における半額登録金政策及び国家奨学金制度の10年

ー学生負担と高等教育財政からみた成果と課題ー

多胡太佑 (尹太佑)

(北海道大学大学院・院生)

・ 11:05～11:30

高等教育における経済的負担軽減及び学修支援に係る

法・制度・行財政の日韓比較研究(2)

渡部昭男 (大阪成蹊大学)

・ 11:30～11:55

全体討議

公開シンポジウム

教育政策と変貌する省庁間関係

【趣旨】

いま、教育政策には、大きな変動が生じている。

GIGA スクール構想や教育 DX の進展の中、文部科学省だけでなく、内閣府、経済産業省、デジタル庁等との連携が近年注目を浴びてきた。

来年 4 月発足予定のこども家庭庁の発足に向け、教育を取り巻く省庁間関係はさらに変貌しつつある。

これらの動向は、教育政策における省庁間関係の複雑化とも言える。

一方で、省庁間関係を通じて全ての子どもや多様な学習者の権利が尊重され、その最善の利益を実現していく政策の充実も期待される。

国の教育政策に生じているこれらの現象をいかにとらえ、特徴づけていくかは、教育行政学が取り組むべき必須の課題であると言ってよい。

本シンポジウムでは、教育政策における省庁間関係の「いま」を共有し、その特徴について対話と議論を深めることを目的とする。

教育政策と重要な関連を持つ 3 つの省庁、内閣府・経済産業省・こども家庭庁（設立準備室）より、プレゼンターを招聘し、それぞれの省庁での政策の推進、その経緯や文部科学省との連携体制について、知見を深める。

そのうえで教育政策が「無責任の体系」（青木 2021）に陥らず、多元化するアクターの中で、児童生徒や学習者のための新たな公教育システムの「これから」＝「責任体系」をいかに実現するかを展望していく。

コーディネーター：末富芳（日本大学）

コメンテーター：北村亘（大阪大学）、青木栄一（東北大学）

プレゼンター：文化庁次長・前内閣府審議官 合田哲雄氏
経済産業省・前教育サービス産業室長 浅野大介氏
こども家庭庁設立準備室・審議官 長田浩志氏

10月15日(土)

17:15-18:00

本館センターホール

総 会

*参加方法につきましては、「発表要旨集録」をご確認ください。

なお、ご欠席される場合は、委任状フォーム (<https://forms.office.com/r/yjiuf98A6V>)
を通して、委任状をご提出してください。

大会 3 日目
10 月 16 日 (日)

自由研究発表5 (対面)

【司会】 貞廣 齋子 (千葉大学)
本田 哲也 (金沢大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:30

教員のウェルビーイングの決定要因

：2期間パネルデータを用いた因果推論

露口健司 (愛媛大学)

・ 9:35～10:00

長時間労働が公立小・中学校教員の健康と業務遂行に及ぼす影響

神林寿幸 (明星大学)

・ 10:05～10:30

地方政治における教育長の意識・行動に関する実態分析

廣谷貴明 (国立教育政策研究所)

・ 10:35～11:00

学校組織内部における若手教員育成・支援の現状と課題

—X県Y地区小中学校教員の4か年パネルデータの分析から—

前田麦穂 (國學院大學)

・ 11:00～11:20

全体討議

自由研究発表6 (対面)

【司会】 田中 真秀 (大阪教育大学)
福嶋 尚子 (千葉工業大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05~9:30

国立大学法人の統合の基礎的考察

岩崎保道 (高知大学)

・ 9:35~10:00

大学団体の政策過程への関与と役割

—私立大学版ガバナンス・コードを事例として—

松本圭将 (京都大学大学院・院生)

・ 10:05~10:30

国立大学法人運営費交付金における「成果を中心とする

実績状況に基づく配分」の運用実態に関する基礎的分析

辻優太郎 (東京大学大学院・院生

／日本学術振興会特別研究員)

・ 10:35~11:25

「臨教審」という首相の選択に関する政治学的仮説

: 中曽根内閣の存続可能性と首相の「臨調方式」への期待

○大島隆太郎 (京都大学

／日本学術振興会特別研究員)

○中村恵佑 (弘前大学)

・ 10:25~11:50

全体討議

自由研究発表7(オンライン)

【司会】 勝野 正章(東京大学)
藤村 祐子(滋賀大学)

・9:00 開会

・9:05～9:30

教員人材確保における「質」の多元性と政策的要因

橋野晶寛(東京大学)

・9:35～10:00

中国の地方公費師範生による農村学校への教員補充の効果と限界

—山東省公費師範生の配置実態に基づいて—

王佳寧(北海道大学大学院・院生)

・10:05～10:30

小学校における教職員配置の変遷と学級担任の負担増大に関する考察

藤垣結髪(筑波大学大学院・院生)

・10:35～11:25

学校の働き方改革に対する教職員の意識分析

—全国7県校長・教員アンケート調査結果から—

○小川正人(東京大学名誉教授)

○川上泰彦(兵庫教育大学)

○荒井英治郎(信州大学)

○神林寿幸(明星大学)

○櫻井直輝(放送大学)

雪丸武彦(西南学院大学)

・11:25～11:50

全体討議

自由研究発表8 (オンライン)

【司会】 仲田 康一 (法政大学)
 本山 敬祐 (岩手大学)

・ 9:00 開会

・ 9:05～9:30

都道府県・指定都市教育委員会の教育振興基本計画における「生徒指導」の記述分析
—平成25年と令和4年の比較—

石田美清 (順天堂大学)

・ 9:35～10:25

臨時的危機管理対応が迫られた際の教育行政機能の限界と再開プロセス
—COVID-19 危機対応の国際動向を手掛かりとして—

- 高妻紳二郎 (福岡大学)
- 福本みちよ (東京学芸大学)
- 佐藤仁 (福岡大学)
- 青木研作 (東京成徳大学)
- 仲田康一 (法政大学)
- 長嶺宏作 (帝京科学大学)

・ 10:30～11:20

国際機関における「健康」と「学校教育」の位置付け

- 小早川倫美 (島根大学)
- 黒木貴人 (福山平成大学)
- LKHAGVA Ariunjargal
(モンゴル国立教育大学)
- 張磊 (大連大学)

・ 11:20～11:55

全体討議

課題研究Ⅱ

教育行政学における基礎概念および重要命題の継承と発展(3)

—教育現象の統合的解明に向けた知的体系へ—

【司会】榎 景子(長崎大学)

清田 夏代(実践女子大学)

【報告者】

高橋哲(埼玉大学)

「論争なき教育行政学における「命題」と「継承」問題

—教育行政研究における「学説」の位置—

篠原岳司(北海道大学)

「教育人権保障のための教育行政学研究(仮)

—教育ガバナンス論と教育実践過程—

山下晃一(神戸大学)

「学問としての教育行政学の方法・課題・展望(仮)

—研究主体の実存的困難に向き合いながら—

【趣 旨】

今期の研究推進委員会は「緊急事態に直面する教育行政・教育行政学の課題」を主題とする課題研究Ⅰと「教育行政学における基礎概念および重要命題の継承と発展」を主題とする課題研究Ⅱの2本の柱で課題研究を進めてきた。昨年度の大会と同様、今年度の大会においても、上記のうち後者の課題研究Ⅱに一本化して開催する。

最終年度となる今回の課題研究Ⅱでは、従来の教育行政学の知的財産の「何を」継承するかという対象の問題もさることながら、それらを「いかに」継承するかという継承方法もまた自明ではなく、意識的・自覚的に究明されるべきであるとの姿勢に立ち戻る。論争や学説吟味の意義への着眼、教育実践との関係や研究の規範性の検証、知的方法論としての特質の再吟味などを通じて、教育行政学の学問的な面白さをいかに維持・再創造・発展していけるか、どのように今後10～20年を見越した研究方法や研究課題を構想できるか等の未来展望に、試論的・挑戦的ながらも迫っていく。その上で、今日の教育行政学を総体として捉えたとき、研究上の関心や手法が一定の広がりを見せたことによって、事実解明と規範定立、実践理念(の熱さ)と現実的諸関係(の冷静さ)、教室・学校と社会的基盤など、多様な対極的観点を統合して言説を生み出しうるという強みを有しており、教育学の関連諸分野に比して遜色ない潜在力や可能性に満ちることを見つめ直したい。

もとより、当委員会に論じることのできる課題でないことは明白である。多くの会員諸氏にご参加いただき、ともに思索する時間が共有できれば、大変有り難い。協議の時間では積極的に発言を募り、あるいはこちらからも直接指名してお願いする所存である。

※今大会で扱えなかった課題研究Ⅰについては、昨年同様、大会終了後にオンライン研究会（または対面との併用）の形態で実施する予定である。近年の状況に鑑みて「教育行政学における教師・教員の位置づけを問い直す」ことをテーマとする。時期も含めた詳細は後日お知らせしたい。私どもの任期終了後の開催となるが、ご海容賜りたい。こちらにも多数ご参加いただけるようお願い申し上げます。

協賛広告一覧（掲載順）

教育開発研究所 様

エイデル研究所 様

大阪大学出版会 様

風間書房 様

協同出版 様

学陽書房 様

晃洋書房 様

明石書店 様

東信堂 様

ウクライナ危機から考える 「戦争」と「教育」

戦争に対して教育は「無力」か。
日本の平和教育に
意味はなかったのか――。

10月3日
発売

戦争が起きるとき、教育はときに戦争に荷担する役割も担ってきた。でも、平和を構築していくために、教育にしかできない役割もある。戦争を防ぐためにも、戦争後の平和な社会を実現するためにも。このたびのロシアによるウクライナ侵攻を受けて、私たちは「教育」という営みを改めてどう考えればよいのか。そしてこれからの学校教育をどうつくっていかなければならないのか。小玉重夫、北村友人、小松太郎、澤野由紀子、4人の専門家が語り尽くす。

戦争と教育

ウクライナ危機から考える
日本教育学会
国際交流委員会
から考える

戦争に対して教育は「無力」か。日本の平和教育に意味はなかったのか。戦争が起きるとき、教育はときに戦争に荷担する役割も担ってきた。でも、平和を構築していくために、教育にしかできない役割もある。戦争を防ぐためにも、戦争後の平和な社会を実現するためにも。このたびのロシアによるウクライナ侵攻を受けて、私たちは「教育」という営みを改めてどう考えればよいのか。そしてこれからの学校教育をどうつくっていかなければならないのか。小玉重夫、北村友人、小松太郎、澤野由紀子、4人の専門家が語り尽くす。

〔編集〕
日本教育学会 国際交流委員会
四六判/176頁/定価1,980円(税込)

本書の内容

第1章 セミナーI
「ウクライナ情勢を考える
――教育学に何ができるか?」
紛争地における教育のリアル/
改めて、教育の役割を問直す/
平和をつくっていく学校へ/
「教育学」に何ができるのか/
新たな教育のモデルを探る

第2章 セミナーII
「ロシアの教育の変遷と、
日本の教育のこれから
――学校をコモنزの場に」
プーチンの教育改革/
民主主義と格差・不平等/
学校を、コモنزの場に/
そのほかの論点/今、日本の学校で

第3章 紛争のリアルと、日本の教育のこれから
――2つのセミナーの補足
紛争のなかでも教育を大事にしなければならない理由/
平和を実現するために/
自己責任論を乗り越える/
戦争の悲惨さを伝える平和教育/
愛国心教育の陥穽

※内容は変更の可能性があります。



教育開発研究所

東京都文京区本郷2-15-13
TEL: 03-3815-7041

小社は送料無料・即日発送!

オンラインショップは早くてカンタン



学校管理職・教育委員会 のための

いじめを 重大化させない

Q&A 100

〔著者〕 嶋崎 政男

いじめが起こってからでは遅い!
学校のいじめ対応 必携の書

目次

- 第1章 いじめの定義・認定
- 第2章 いじめの重大事態
- 第3章 第三者委員会の調査
- 第4章 重大事態の調査
- 第5章 調査報告書(答申)の作成
- 第6章 調査にあたっての基礎知識



B5判並製・152ページ
ISBN 978-4-87168-682-2
C3037 ¥2000E
定価2,200円
(本体2,000円+税10%)

コミュニティ・ スクール

増補
改訂版

「地域とともにある
学校づくり」の実現のために
佐藤 晴雄 著

コミュニティ・スクールへの理解や
学校改善に役立つ実用書。
大規模な全国調査のデータに基づき、
コミュニティ・スクールの実態や
成果・課題を明らかにする。

目次

- 第1部 保護者・地域による学校運営参画の
意義と現代的特質
- 第2部 調査から考察するコミュニティ・スクールの
実態
- 第3部 コミュニティ・スクールQ&A
〔基礎編〕/〔委員編〕/〔運営編〕/〔準備編〕



A5判並製・223ページ
ISBN 978-4-87168-636-5
C3037 ¥1800E
定価1,980円
(本体1800円+税10%)

季刊 教育法

● B5判
● 本体1,905円+税
● 3・6・9・12月25日発行

特集1 部活動の地域移行
特集2 どうなる、日本の大学

2024号
(2022年9月号)

213号 「特集1」開かれた、参加と共同の学校づくり
212号 「特集1」子どもの人権を守るために―性教育編―
211号 「特集2」教員の働き方―長期休暇編―
210号 教育判例にみる子どもの権利
子どものいじめの今を知る

学力格差を克服する学校文化

効果のある学校のエスノグラフィー

西徳宏 著

(大阪大学大学院人間科学研究科 助教)



格差社会のなかで実現される公正な学校教育とは。「効果のある学校」が持つ文化の成立と継承の実態を描き出す。「誰も見捨てない」独自の教育理念が継承されている学校の特徴、連携体制、教員の意識を分析する。

A5 上製・446 頁 ¥6,300

ISBN978-4-87259-743-1 C3037



未来志向の大学入試デザイン論

大阪大学高等教育・入試研究開発センター編 ◎最新の大学入学者選抜入試の制度・戦略・業務を詳述。 A5並製・三三〇頁・二、七五〇

リフレクティブ・ダイアローグ

学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング

加藤聡子、ジョー・マイナード著 ◎実際のアドバイジング実施方法を豊富な用例に基づき示す。 A5並製・四〇八頁・四、四〇〇

ウェルビーイングを実現する学力保障

高田一宏著 ◎貧困・社会的排除の深刻化による学力格差を広げないために学校はどうあるべきか。 A5上製・二四二頁・四、九五〇

〈しんどい学校〉の教員文化

社会的マイノリティの子どもと向き合う教員の仕事・アイデンティティ・キャリア

中村瑛仁著 ◎教員の専門性の内実 A5上製・二八〇頁・四、八四〇

〒565-0871 吹田市山田丘 2-7
大阪大学ウエストフロント
<https://www.osaka-up.or.jp>

大阪大学出版会

TEL 06-6877-1614
FAX 06-6877-1617 価格税込
E-Mail eigyo@osaka-up.or.jp

教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

子どもの権利をまもるスクールロイヤー

松原信継・間宮静香・伊藤健治編著 2750円

近現代日本教員史研究

船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著 4950円

アメリカ教育長職の役割と職能開発

八尾坂修編著 3300円

現代キャリア教育システムの日仏比較研究

京免徹雄著 8250円

海軍飛行予科練習生の研究

白岩伸也著 7700円

米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容

齊藤仁一朗著 9900円

占領期日本における学校評価政策に関する研究

福嶋尚子著 12650円

奇跡の学校—コミュニティ・スクールの可能性—

小西哲也・中村正則編著 1650円

地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—

北野秋男著 2022年12月刊行予定 予価7700円

日米のテスト戦略—ハイスティクス・テスト導入の経緯と実態—

北野秋男著 2200円

コミュニティ・スクールの全貌

佐藤晴雄編著 4400円

評伝 成瀬仁蔵—女子高等教育から「社会改良」へ—

片桐芳雄著 (発行:日本女子大学 発売:風間書房) 4950円

義務教育段階における学習権保障法制の変容に関する研究

牛 玄著 5500円

ウイネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程

宮野 尚著 8250円

現代米国の教員団体と教育労働法制改革

高橋 哲著 8800円

教員自主研修法制の展開と改革への展望

久保富三夫著 12650円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

教員採用試験対策に役立つ法令集!

2023年度版

必携 教職六法

好評
販売中!

- 教員採用試験完全対応，幼児教育部門を強化!
- 教員採用試験に頻出の条文が太字で一目瞭然!
- 難解な関連法令と最新教育事情とがわかる
「事項別解説」を収録!
- 読むほどに教員採用試験合格が近づく
「読む」教育法令集!



監修 京都光華女子大学学長 高見 茂
上席編集委員 京都大学特任教授 若井 彌一

編集委員 東北大教授 青木 栄一
学習院大学教授 梅野 正信
福山平成大学教授 古賀 一博
日本女子大学教授 坂田 仰

定価 本体2,200円+税 A5判 ISBN978-4-319-64127-7



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970

ホームページ <https://kyodo-s.jp>

教職概論

教師を目指す人のために
〈第6次改訂版〉

佐藤晴雄 [著] 定価12,640円(税込) A5判 240頁 2022年8月刊
4年ぶり最新版出来!

- ◎二〇〇一年の初版刊行以来、教職に就こうとする学生や教職導入単位を教える先生からの圧倒的な支持を得て読み継がれている一冊!
- ◎教育改革に伴う法改正や制度改革を盛り込み、資料等を最新データに更新。
- ◎「教育実習総論」のテキストとして、また、採用試験対策の参考書として最適。



現代教育概論

第5次改訂版

佐藤晴雄 [著] 定価12,640円(税込) A5判 260頁 2021年3月刊

- ◎教育学の基礎理論を踏まえながら、現代の教育改革をめぐる動向や教育課題を考察。
- ◎単なる概念書にとどめず、最新の実践的事項を詳述。
- ◎初学者のテキストに、また、教職採用試験の参考書に最適。



生涯学習概論

第2次改訂版

佐藤晴雄 [著] 定価12,750円(税込) A5判 240頁 2020年3月刊

- ◎生涯学習および社会教育の歴史にはじまり、今後の問題までを、バランス良く、平易な書き方で概括した基本図書。
- ◎社会教育調査をはじめ必要なデータや資料をきちんと押さえ、わかりやすく解説。



学陽書房

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋1-9-3
TEL:03-3261-1111 FAX:03-5211-3300 ●HPはこちら



武井哲郎・矢野良晃・橋本あかね 編著 158頁 2200円
不登校の子どもとフリースクール
 持続可能な居場所づくりのために
 財政基盤が弱い民間フリースクールが子どもたちの最善の利益を守り事業を続けるためには？
 フリースクールの「つくる」「つづける」地域を巻き込み教育や社会を変革する学校づくりまで

デビッド・B・タイアック 著／中谷彪・岡田愛訳 408頁 6380円
アメリカ都市教育史 The One Best System
 アメリカ教育史研究に新しい解釈を提示した名著 待望の翻訳！

喜始照宣 著 256頁 5060円
芸術する人びとをつくる 美大生の社会学
 日本の美術教育は、芸術家としての生き方・あり方にどのような影響を与えているのか

谷川至孝・岩槻知也 編著 188頁 2860円
子どもと家庭を包み込む地域づくり
 教育と福祉のホリスティックな支援
 ボランティア組織、社会福祉協議会、こども食堂……様々な機関が連携して住民が主役となる地域づくりのモデルを紹介し、展望する

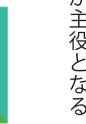
川合宏之 著 150頁 2750円
高校生と大学生がともにつくる高大連携授業
 ナナメの関係が高校生にどのような影響を与えるのか
 「高大連携授業」の実践と事例検証から、「大学生を介入させる高大連携」が有効であることを示す

寺町晋哉 著 214頁 2750円
〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践
 ジェンダー平等な学校をつくるため、教師たちにできることは

都島梨紗 著 240頁 4070円
非行からの「立ち直り」とは何か
 少年院教育と非行経験者の語りから、「立ち直り」を捉えなおす
 一七名の少年院経験者の語りから、「立ち直り」を捉えなおす

柏木智子・武井哲郎 編著 186頁 2860円
貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援
 地域・学校・行政の挑戦
 すべての子どもが「生まれてきてよかった」と感じられる社会づくりへの挑戦

大津尚志 著 142頁 1760円
校則を考える 歴史・現状・国際比較
 どのような歴史を経て、「校則」と呼ばれるものができたのか
 「校則」を多角的な視点から検討する



晃洋書房 京都市右京区西院北矢掛町七番地 TEL 075 (312) 0788 / FAX 075(312)7447
 ◎書籍の詳細はホームページから ▶▶▶ http://www.koyoshobo.co.jp



一斉休校
 そのとき教育委員会・学校はどう動いたか？
 一斉休校・教育委員会対応検証プロジェクト 企画
 末富芳 編著 ◎2530円
 パンデミック下で各自治体かどのような対応を行ったか、未来に伝えるべき記憶や経験を明らかにする。

学校に居場所カフェをつくらう!
 生きづらさを抱える高校生への寄り添い型支援
 居場所カフェ立ち上げプロジェクト 編著 ◎1980円
 生徒の微弱なSOSをキャッチする寄り添い型の支援の日常から、学校との連携・運営の仕方まで、カフェのはじめ方と続け方を解説。

学校という場の可能性を追究する11の物語
 学校学のことをはじめ
 金澤ますみ、長瀬正子、山中徹二 編著 ◎2420円
 活動領域や立場の異なる実践家の〈11の物語〉を通して浮かび上がる学校という場の可能性。

イギリス発!
ベル先生のコロナ500日戦争
 これからの学校にできることって何だろう
 遠藤野ゆり 編著 ◎1870円
 セネック アンドリュウ、川崎徳子、大塚類、佐藤桃子 著
 子どもたちの学びと暮らしを守るために、学校は何をどのように決定し、実行したのか。ベル校長先生の500日間の奮闘を描く。

すき間の子ども、すき間の支援
 一人ひとりの「語り」と経験の可視化
 村上靖彦 編著 ◎2640円
 統計からは見えにくい困難と支援のダイナミズムを子どもや親、支援者の「語り」を軸にして、リアルなもの一端を可視化する試み。

コロナ禍が変える日本の教育
 教職員と市民が語る現場の苦悩と未来
 NPO法人「教育改革2020『共育の杜』」企画・編集 ◎2200円
 コロナ禍によって突然、現場にもちこまれた一斉休校。子どもたちにとってのケアをするか、ICT教育を一気に導入するチャンスに転換するか、20の現場からあがった声でコロナ後の教育の展望を語る。

教育は社会をどう変えたのか
 個人化をもたらすリベラリズムの暴力
 桜井智恵子 著 ◎2750円
 リベラリズムは、いかに私たちの日常を形作り、統治を仕掛けているか。政治・経済との関係で教育を歴史的にとらえ直す。

社会の周縁を生きる子どもたち
 家族規範が生み出す生きづらさに関する研究
 志田未来 著 ◎5940円
 ひとり親家庭を中心とした非標準的な家庭要素と学校経験との関連を探り、学校教育を通じた生徒に対する支援策を検討していく。

社会情動的スキルの国際比較
 教科の学びを超える力
 〈第1回OECD社会情動的スキル調査(SSSES)報告書〉 ◎3960円
 経済協力開発機構(OECD) 編著 矢倉美登里、松尾恵子 訳
 個人の成功や円滑な社会機能に結びつく社会情動的スキル。世界10都市の調査の結果から、将来への希望や期待、創造性と好奇心、学校への帰属意識やいじめ被害などの関連を考察する。

OECD教育DX白書
 スマート教育テクノロジーが拓く学びの未来
 経済協力開発機構(OECD) 編著 濱田久美子 訳 ◎7920円
 最新テクノロジーは、教育や学習をどのように変革するのか？ 教室の内外、そして教育機関やシステムにおける教育DXの最先端の動向からその有効性を考察する。

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
 TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174
 *図書目録送呈 *価格税込 https://www.akashi.co.jp/

この広告をご覧のお客様限定! 広告内の書籍や関連書の購入をご希望の方は、右のQRコードから販売ページにてお申込みいただけますと、期間限定で**2割引・送料無料**にて承ります。ぜひご活用ください! (公費対応可)



コロナ禍の学校で「何が起こり、どう変わったのか」

細田真由美編 佐藤博志編著 朝倉雅史著

A5・上製・312頁・税込3520円 ISBN978-4-7989-1782-2 C3037

学校現場で生徒、保護者、教育関係者は何を見たか。

さいたま市教育長の協力によりコロナ禍の学校現場の変容を調査。休校に伴いオンライン授業やICTを導入したが、従来の学校教育の問題がより一層生徒の学習・成長の妨げとなり、教師もより多忙化を極めていた。問題が山積みの中、教育関係者と生徒と保護者の現状と展望についてまとめた教育現場のリアリティ。

【目次】

- 緒言 言一本書を読む人々へー (細田真由美)
- はじめに (佐藤博志)
- 序章 本書の目的と方法 (佐藤博志)
- 1章 転換期の日本の学校 (佐藤博志)
- 2章 自治体の実態 (佐藤博志)
- 3章 学校の事例研究 (佐藤博志)
- 4章 数字でわかる現場のマインド (朝倉雅史)
- 終章 現場のリアリティから未来の教育を描く (佐藤博志)
- あとがき (佐藤博志)
- 執筆者紹介



東信堂
直接注文
お問い合わせ



アマゾン



楽天
ブックス



honto



アメリカ教育例外主義の終焉

ジェフリー・ヘニグ著・青木栄一監訳 320頁・3960円

現代アメリカにおける学力形成論の展開

石井英真著 533頁・5280円

カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政

平田淳著 360頁・4180円

連邦制国家インドにおける高等教育の展開

渡辺雅幸著 200頁・3520円

イギリス大学制度成立史

山崎智子著 256頁・3520円

イスラーム教育改革の国際比較

日下部達哉編著 224頁・2970円

インドネシアのイスラーム基礎学習の組織的展開

中田有紀著 256頁・3630円

オーストラリア・ニュージーランドの教育

青木麻衣子・佐藤博志編著 224頁・2200円

現代ロシアの教育改革

ロシア・ソビエト教育研究会編 432頁・3960円

日本の大学改革の方向

江原武一著 280頁・3520円

戦後日本の大学教育の回顧と展望

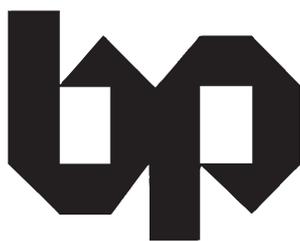
絹川正吉著 96頁・1100円

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo.onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp (代表)

*博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

書籍・学会誌・自分史



カタログ・社内報・伝票

[株]

文成印刷

代表取締役 林 幹雄

東京都杉並区方南1-4-1 ☎ 03-3322-4141 FAX 03-3322-4144

E-mail: bp@bunsei.com
URL <http://www.bunsei.com>

日本教育行政学会第 57 回大会プログラム

日本教育行政学会第 57 回大会実行委員会

委員長：

末富芳（日本大学）

事務局長：

佐久間邦友（日本大学）

委員：

佐藤晴雄（日本大学）

長嶺宏作（帝京科学大学）

窪和広（日本大学文理学部人文科学研究所）

増子恵美（東京都教育庁）

寝占真翔（帝京科学大学）

表紙デザイン

大塚もも（日本大学文理学部教育学科 3 年）

